

1：単元名

少年の日の思い出

2：各観点の目標

知識・技能【知・技】	思考判断表現【思判表】	主体的な学習に取り組む態度【主】
原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。	1 文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えることができる。 2 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。	根拠を持って主体的に考え、他者の意見を尊重しながら自分の考えを深める。登場人物の立場や思いを想像し、学びを人とかかわりに活かす。

3：単元の問い

発問案

なぜ「僕」は「チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまった」のでしょうか。

4：単元計画

時数	目標(【知・技】 【思判表【主】)で評価の 観点	学習項目または 今日の問い	最後の1問
1	本文を通して読み、「少年の日の思い出」がどんな話かを一文でまとめよう。 【主】	話を一文でまとめよう。	話を一文でまとめよう。
2 3	全体の把握  本文を三つに分け、人物と出来事を把握しながら、現在と回想で書かれていることに気づこう。【知・技】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を三分割</li> <li>・現在と回想に分かれていることに気づく。</li> <li>・人物相関図で人物の把握</li> <li>・時間、人物、出来事の把握をする。</li> </ul>	

4 5	人物の把握 二人がどんな人物かわかる描写・言動を見つけよう。 【知・技】【主】	・「エーミール」と「僕」について考える。 ・バタフライチャートを用いて、いろいろな対比があることに注目する。	・「僕」と「エーミール」それぞれ一言でまとめると？
6 7	人物の心情の変化の把握 後半Bを読んで、「僕」が最も大きく変化したところを考えよう。 【知・技】【主】	・色・情景・行動（描写） 今まで学んできたことから人物の心情を把握する。	・「僕」の気持ちが一番変化したのはどこだろう。 ・「僕」は何を学んだらう。
8 本時	人物の言動の意味を、語りや描写をもとにとらえる。 【思判表】	なぜ「僕」は「チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまった」のでしょうか。 1 「なぜ」を考える。 2 全体で共有 3 討論 4 再度「なぜ」を考える。	なぜ「僕」は「チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまった」のでしょうか。

#### 5：本時の流れ

- 1 前時の復習（前回出た意見を伝える）
- 2 NotebookLM を用いて、元の文章を打ち込む。
- 3 不足している視点や、補足を各自選び、文章を整える。（メモを取る・教科書を読む）

#### 主発問

なぜ「僕」は「チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまった」のでしょうか。

#### 学びを深める工夫

AI の活用

#### 6：評価について

##### ①指導要領より

##### 話すこと

イ 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。

エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。

オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめること。

##### 書くこと

ウ 根拠を明確にしながらか、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。

## 読むこと

イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。

ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。

エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。

## ②評価基準より

### 思考力・判断力・表現力の評価基準

- ・ A 評価：本文の言葉を具体的な根拠として、登場人物の行動と心情を論理的に結びつけながら、自分の考えを深く表現できている。
- ・ B 評価：本文の内容に即した結論と理由を記述し、概ね妥当な根拠をもとに自分の考えを表現できている。

## ③評価のチェックボックス（A は四個以上、B は三個）より

1. 結論と理由の提示：チョウを潰した理由について、自分の結論と、その根拠となる理由を明確に書いている。
2. 本文との整合性：書かれた内容が、本文の展開や登場人物の状況と矛盾していない。
3. 叙述の引用（具体的根拠）：本文中の具体的な言葉（例：「自分でその思い出をけがしてしまった」など）を引用、または根拠として使っている。
4. 行動と心情の結合：「チョウを押しつぶす」という行動が、どのような心情（例：自分への罰、罪の意識）から生じたか、そのつながりを説明している。
5. 考察の深化：単なる事実のまとめに留まらず、主人公の価値観の変化や、過ちに対する向き合い方など、踏み込んだ自分の考えを述べている。

## ④例文

### 評価 B の文章

・チョウを潰した理由は、自分への罰だと思いました。エーメールに拒絶されたことで、主人公は自分のしてきたことがよくなかったと感じたからです。エーメールにチョウの扱い方を注意され、主人公は自分が悪いことをしたと思い、その気持ちからチョウを潰してしまったのだと考えました。（3と5が不足）

・チョウを潰した理由は、自分がした悪いことを思い出させるチョウを、目の前から消して忘れたかったからだと思いました。エーメールに自分の行動を否定されて、主人公は自分がひどい人間だと感じてしまいました。チョウを見ていると、盗んで壊してしまった嫌な記憶を思い出して苦しくなるので、すべて壊すことで過去の出来事を自分の中から消し去ろうとしたのだと考えました。（3と5が不足）

・チョウを潰した理由は、エーメールに否定されて、チョウ集めが嫌になったからだと思いました。エーメールに自分の行動を指摘され、主人公は自分のしてきたことが良くなかったと感じたのだと思います。そのため、集めていたチョウを見るのがつらくなり、自分の手で壊してしまったのだと考えました。（3と5が不足）

・チョウを潰した理由は、なんとなく嫌な気持ちになったからだと思いました。エーメールに会ったことで、主人公は気分が落ち込み、チョウを見るのも面倒になったのだと思います。エーメールの言葉がきっかけではあるものの、主人公自身も何をどう感じたのかははっきりせず、心が混乱していたのではないのでしょうか。そのため、特に深い理由はなく、その場の気分で衝動的にチョウを潰してしまったのだと考えました。（2と4が不足）

### 評価Aの文章

・チョウを潰した理由は、自分への罰だと思いました。エーメールに拒絶されたことで、主人公は自分が収集家として失格だと悟ったからです。エーメールは主人公のチョウの扱い方をそのものを否定しました。その結果、チョウは宝物ではなく、「自分でその思い出をけがしてしまった」「一つ一つ」指で押しつぶすことで、自分の思いあがった気持ちと罪を自分自身に刻み、二度と同じ間違いをしないための罰を与えたのだと考えました。

・チョウを潰した理由は、過ちの象徴になった思い出を、自分の中から消し去ろうとしたからだと思いました。エーメールに「君がチョウをどんなに取り扱っているか」と軽蔑され、自分の熱情が「下劣な」行為に変わったことを痛感したからです。かつての「宝物」を、暗闇の中で「一つ一つ」粉々に潰すという行為は、「もう償いのできない」苦しい思い出を物理的に壊すことで、無理にでも忘れようとしたのだと考えました。

・チョウを潰した理由は、自分にはもう収集家としてチョウを持つ資格がないと判断したからだと思いました。エーメールから「そんなやつなんだな」と人間性を否定されたことで、主人公は純粋にチョウを愛していた「思い出をけがしてしまった」ことに気づきました。自分の手で「粉々に押し潰す」という激しい行動は、収集家としての自分を葬り、二度とチョウを手にしないという強い決意と、罪に対するけじめを表しているのだと考えました。

・チョウを潰した理由は、自分にはもうチョウを集める権利がないと思ったからだと思いました。エーメールに自分の人間性を否定されたことで、主人公は自分が本当はチョウを大切にしていなかったことに気づきました。今まで大切に集めてきたチョウを自分の手で壊すことで、二度とチョウ集めはしないという、自分なりのけじめをつけようとしたのだと考えました。

・チョウを潰した理由は、自分への罰だと思いました。エーメールに拒絶されたことで、主人公は自分が収集家として失格だと気づいたからです。エーメールに自分のチョウの扱い方を否定されたので、チョウは自分の罪のしるしになってしまいました。だから、自分を罰するためにチョウを潰したのだと考えました。



評価基準

A 評価：本文の言葉を具体的な根拠として、登場人物の行動と心情を論理的に結びつけながら、自分の考えを深く表現できている。

B 評価：本文の内容に即した結論と理由を記述し、概ね妥当な根拠をもとに自分の考えを表現できている。

C 評価：B に満たないもの。

セルフチェック

	内 容	基 準
1	結論と理由の提示	<p>チョウを潰した理由について、自分の結論と、その根拠となる理由を明確に書いている。</p>
2	本文との整合性	<p>書かれた内容が、本文の展開や登場人物の状況と矛盾していない。</p>
3	具体的根拠（引用）	<p>本文中の具体的な言葉（例：「自分でその思い出をけがしてしまった」など）を引用、または根拠として使っている。</p>
4	行動と心情の結び付き	<p>「チョウを押しつぶす」という行動が、どのような心情から生じたか、そのつながりを説明している。</p>
5	考察の深まり	<p>単なる事実のまとめに留まらず、主人公の考えの変化や、過ちに対する向き合い方など、踏み込んだ自分の考えを述べている。</p>
	✓	

